

新外来棟への移転に向けて

診療支援部歯科衛生部門 仲澤 さやか
歯科衛生士



診療支援部歯科衛生部門、歯科衛生士の仲澤と申します。

平成19年に採用され、摂食嚥下リハビリ室を経て現在は矯正歯科診療室に勤務しています。歯科外来棟には

1階から3階までのそれぞれに各専門外来があり、矯正歯科はその1階になります。

本院の外来は、今までは歯科外来と医科外来がそれぞれ別の棟として建っていましたが、来年度には新たに『医歯学総合病院外来棟』へと移転し、医科外来・歯科外来が一つの外来棟にまとまる予定です。

そんな新外来棟への移転が控えている現在、私達歯科衛生士も看護師など他職種の方々と協力しながら移転に向けて様々な準備を行い、分担して検討しているところです。

みなさんご存知のことと思いますが、現在は診療室が1階から3階までの間にそれぞれ部屋として分かれている歯科外来が移転後はワンフロアになり、科ごとの受付がなくなるなど現在の診療室のような各診療科の明確な区切りがなくなります。

そのようなワンフロアのなかに器具コーナーとして設けられた10ヶ所に診療に使うもの、歯科材料やグローブ・紙タオルなどの消耗品を全て配置しなければなりませんし、使用後の器具の回収の仕方も変更になります。

また、ユニット周囲はそれぞれがパーテーションで区切られるため、外からは容易に中の診療の状態がわからなくなることが考えられます。プ

イバシーの保護などの観点からは望ましいことではありますが、診療補助などを考えたときにはどのように診療の状態を把握していけるかが悩みどころです。

そんな移転前後の変化を考えた時に、器具や材料の配置・物品の管理・働きかたなどのほか、各診療科で使われている患者用リーフレット等の管理方法等も検討課題として挙がっています

今回は、現在検討しているそれらのうちの一部をご紹介します。どうぞよろしくお願いいたします。

■ユニットスペースや器具コーナーの物品配置

移転後は主に診療科ごとに大まかに分けられたブロックにおいて診療が行われることとなる予定です。それらのブロックごとに設けられている狭い器具スペースの中で各診療科に共通する物品の配置とともに、そのブロックのメインとされる診療科の専門性に合わせた物品配置を考えてなければなりませんし、同様に各ブロックのユニットサイドのキャビネットに置いておく物品も考えていかなければなりません。

また、私達スタッフも各ブロックを移動しながら業務を行っていくことになると考えられるため、それぞれの器具コーナーで戸惑うことのないようにレイアウトなどの基本を統一し、使いやすい物品配置になるよう検討しています。

さらに現在の診療科にどのような器具・材料があるか、それらをどのブロックに置いていくかなども調査・検討中です。

また、使用後の器具の返却やハンドピースの滅菌をどのように行っていくかなども考える必要のあることであり、現在の診療室での動線などを確認し、検討していただいているところです。

■中央器材庫における物品管理に備えて

移転後は基本的に中央器材庫で材料を一括管理していくこととなる予定です。歯科の全診療科の物品が全て一つの器材庫で管理されることとなりますので、材料を効率的に使用することが可能になると思います。しかし、中央器材庫も広くないため現在の物品全てを在庫することができません。

そのため中央器材庫での一括管理に備え、昨年度より半期に一度のたな卸しごとに先生方にご協力をお願いして物品の削減を試みています。2010年度のたな卸し後の削減で材料数を約2,200アイテムまで削減することが出来ましたが、中央器材庫のスペースを考えると削減後の2,200というアイテム数でもそれだけの物品を器材庫に収めることが出来ません。

そのため、先生方にはさらに厳しく選定をしていただけるようお願いしているところです。

他には紙タオルや各種グローブなどの消耗品に関して、それぞれの材料が一週間でどれだけ消費され、どれだけ在庫を必要とするのか、さらには器材コーナーなど診療フロアのどこにどのように配置していく必要があるのかなども調査・検討しています。

また、それと平行して『在庫状況が見やすく』『取り出しやすく』かつ、できるだけたくさん材料を保管できるように中央器材庫での在庫方法なども検討しているところです。

■バー・ファイルの滅菌化

感染管理上、交差感染の危険性のある現在のケース単位消毒・滅菌のバイキング形式から、バーなどをそれぞれ包装して滅菌することになりました。しかし、バーやファイルなどの全てを1本ずつ包装して滅菌していくのは実際の診療での使用を考えると現実的ではないため、どのように組み合わせる包装したら診療上使いやすいかという検討を行うWGがたちあげられており、歯科衛生士も参加させて頂いていました。バーについては先

生方のご協力の下、さまざまな組み合わせがつけられ、新外来棟への移転前からそれらを実際に診療で使ってみる試行が一部では始まっています。

ファイルに関しては、折れたり曲がったりすることのないように、使用される組み合わせごとに専用の小さなケースに入れて滅菌されますし、スケーラーチップやPMTTCに使用されるブラシなども組み合わせ包装・滅菌化されます。

すべてが包装されていくため、バーやファイルなどを置いておくスペースが滅菌パックだけになることが簡単に予想できます。そのため、今後はできるだけ見やすく探しやすい配置方法を検討していく予定です。

■新外来棟での動きかたなど

歯科衛生士の動き方も、現在とは変わらなければならないことと思います。1～3名が各診療室の専属として配置されている現在と違い、診療科の大きな壁がなくなるワンフロアでは全員がフロアを見渡しながらか協力して動いていかなければなりません。どのような勤務体制にするのが診療上一番よいのか、現在は歯科衛生士の予約の取り方・周辺業務の行い方などが検討課題としてあがっています。

また、患者動線に沿ってスタッフがどのように動いていくことになるのか、問診票や治療後の説明用紙などをどのように取り扱っていくことになるのか、など、今後は受付回りの動線や必要物品などの検討にも参加させていただくことになっています。

診療室の形態や、スタッフの働き方が大きく変わるようになります。

私達歯科衛生士も戸惑うことばかりですが、部門内外でさらに協力しあわなければならないと思っています。

これからも、みなさまにはさまざまなことをご協力をお願いすることになると思いますが、なにとぞよろしく願いいたします。